



## 桶口季一郎中将を慕い、淡路島・伊弉諾神宮へ

高橋 司 たかはし・つかさ

弁護士。1963年生まれ。北海道大学大学院法学研究科修了。  
「公事宿法律事務所」代表。

毎年伊勢神宮に参拝させていただくようになつて早20年が経過した。月日が過ぎていくのはあまりにも早い。さて、日本書紀では、天照大御神の父は伊邪那岐命、母は伊邪那美命とされている。当然、伊勢路を歩くたびに淡路島にある伊弉諾神宮が

い。さて、日本書紀では、天照大御神の父は伊邪那岐命、母は伊邪那美命とされている。当然、伊勢路を歩くたびに淡路島にある伊弉諾神宮が

どういう場所なのが気になつてはいたが、神戸には出張で訪れても近くにある淡路島にはなかなか足が向かなかつた。ところが、10年ほど前に読んだ浅田次郎著「終わらざる夏」に登場する桶口季一郎中将の銅像が、昨年10月に出身地である淡路島・伊弾諾神宮内の淡路祖靈社近くに建立されたことを知り、なんとしてでも行かなければ強く思うようになった。以前から懇意にしていただいているしのだ江里子札幌市議会副議長が桶口季一郎中将のお孫さんということも強く影響している。終戦のあの時、桶口季一郎中将がいなければ北海道は間違いくんソビクトの目論見どおり2分割されたであろう。それを食い止めるため、戦争が終わった後も戦い続けて命を失い、また、存命してもシベリアに抑留され同地にて命を落とした数多くの先人たちに思いをはせ、伊弾諾神宮にて手を合わせたかつたのである。

伊邪那岐命は高天原の神々から修理固成（國を創り固め成せ）の命を受けて、天浮橋から天沼矛で下界をかき混ぜ、引き上げた矛先から滴り落ちた塙の露が自ら凝り固まつて自凝島となつたこと、同島にて伊邪那岐命は伊邪那美命と結婚をしたこと、その後、亡くなつて黄泉の国に行つてしまつた伊邪那美命を追いかけた伊邪那岐命が、黄泉の国と地

上との境である黄泉比良坂にて永遠の別れを告げたこと、黄泉の国から戻つた伊邪那岐命が黄泉の国に穢れを落とすために禊ぎを行つてその左目から天照大御神が生まれたと記述されている。国生みの大業は天照大御神に國家の統治の大業を委譲した後、淡路島多賀の地にあり幽宮にて余生を過ごされたこと、その後、天照大御神は、御孫である瓊杵尊に三種の神器を授けて葦原中國を治めるように命じ、瓊杵尊は猿田彦神を先導として八百万神を従え、高天原から九州日向の千穂に降臨されたという壮大な物語りが始まるのである。

桶口季一郎中将の銅像を目の前にしてその姿を見上げた。浅田次郎著「終わらざる夏」に書かれている占守島の風景を感じながら手を合わせた。周りには人はいなかつたが、淡路島が生んだこの偉人の功績はもう多くの国民が知るべきであろう。

その後、参拝を終えようとした時、その石碑を見て実際に一周して私は驚愕した。それは、伊弾諾神宮を基点として太陽の軌道を計測したところ、夏至の日出は長野県にある諏訪大社、夏至の日没は出雲大社となつてゐること、冬至の日出は熊野

那智大社、冬至の日没が九州の高千穗神社となつてること、春分秋分の日出が伊勢神宮、日没が長崎県対馬市にある海神神社となつてること、これらすべての大社や神宮と伊弾諾神宮とが一直線に結ばれていることが判明している。

伊能忠敬が17年かけて日本全国を測量して「大日本沿海輿地全図」を完成させたのは1821年ころのことである。伊勢神宮から海神神社までの距離はおよそ670キロもあるという。伊弾諾神宮、伊勢神宮、海神神社を同じ緯度の場所に造り上げることなど本当にできるのだろうか。また、伊弾諾神宮を基点として、夏至の日や冬至の日ににおける日の出、日の入りの場所に諏訪大社、出雲大社、熊野那智大社、高千穗神社を造り上げることができたのはどうしてなのだろうか。これらの位置関係はもはや偶然とはいえない。私が伊弾諾神宮を参拝し桶口季一郎中将の銅像を見上げた日は、しだれ市議からの説明では、奇しくない。私が伊弾諾神宮を見上げた日は、季一郎中将の銅像を見上げた日は、

その石碑を見て実際に一周して私は驚愕した。それは、伊弾諾神宮を基点として太陽の軌道を計測したところ、夏至の日出は長野県にある諏訪大社、夏至の日没は出雲大社となつてゐること、冬至の日出は熊野

那智大社、冬至の日没が九州の高千穗神社となつてること、春分秋分の日出が伊勢神宮、日没が長崎県対馬市にある海神神社となつてること、これらすべての大社や神宮と伊弾諾神宮とが一直線に結ばれていることが判明している。